

## はじめに

「生徒がこんなに活発に話しているのを、はじめて見ました」  
私の授業を見学した学校の先生から、よくいただく感想です。

博報堂という広告会社で、「対話型授業」を行って7年になります。この授業は、私が会社の社会貢献活動として立ち上げたもので、名前を「H-CAMP（エッチキャンプ）」と言います。中学生と高校生を主な対象とし、博報堂の会議室で開催しています。

2016年には、経済産業省が主催する「キャリア教育アワード」で、経済産業大臣賞（大企業部門の最優秀賞）と大賞（全部門を通じての最優秀賞）を受賞させていただきました。

H-CAMPには3つのプログラムがあります。学校単位での訪問受け入れを行う「企業訪問-CAMP」、個人参加型のプログラム「OPEN-CAMP」、自治体やNPOなどと共催する「リレーション-CAMP」の3つです。

「企業訪問-CAMP」には、「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」（以降、本書ではこの2つを合わせて「総合学習の時間」と表記しています）や修学旅行の一環などで、多くの学校が来社します。2018年度に来社した学校数は123校。7年間で延べ600校を超えました。1回2時間の授業を行っており、私がほぼすべて講師を務めます。\*

本書では、この「企業訪問-CAMP」で培ってきた対話型授業の技術と心構えを、余すことなく紹介したいと思います。

2020年度から本格的に始まる教育改革。授業には対話の要素が取り入れられ、これまではなかった課題が生まれています。

この本を書くにあたり、中学校・高等学校の生徒と先生に「対話型授業の課題と感想」について、アンケートを行いました。人数は50名ずつです。多かった声をご紹介します。全国の生徒と先生が、同じ思いを抱かれていますのではないのでしょうか。

### ◎生徒が感じる対話型授業の課題と感想

「授業の中の話し合いが苦痛。話し合うテーマ、考えるテーマが楽しくない」

「基本的に『答え合わせ』の話し合い。正解を見つけたら終わり」  
「人前で話すことが苦手。間違いかも思えないと思うと、発言ができなくなる」  
「義務感で行われる話し合い。先生も、上からやれと言われ、しかたなくやっている感じが  
ある」

「楽しい話し合いを体験したい。大人になってからも本当に役立つことを学びたい」

#### ◎先生が感じる対話型授業の課題と感想

「おとなしい生徒が多い。自分の考えを自分の言葉で語れない」

「生徒の思いや考えを引き出すことが難しい」

「生徒の主体性を発揮させたいと思うが、なかなかできない」

「正解がないことが怖い。正解があることを、話し合いのテーマにしてしまう」

「対話型授業のコツやノウハウを知る機会がない。すべて自己流」

「教える時間と話し合う時間のバランスが難しい。時間が足りない」

このような声がある一方、私の授業を見学した先生から、左記の感想をよくいただきます。

7年間でいただいた膨大な数の感想やご意見は、このような内容に集約ができます。

「学校ではおとなしい生徒が、積極的に話をしていて驚いた」

「生徒からこんなに斬新なアイデアが生まれるのかと、ショックを受けた」

「生徒に笑顔があった。授業を面白くするコツや、生徒の心を惹きつける手法を学んだ」

「生徒の思いを丁寧に取り出した。一人ひとりの話をしっかりと聞いてくれた」

「考えやすいものを入口にする大切さと、力を引き出す段取りを学んだ」

「考えを深めるための、効果的なワークやアドバイスがたくさんあった」

これらの声をあらためて確認し、『対話型授業の課題』に定める6つの柱を立てました。この6つはそのまま章になっており、事例などを交えながら、具体的に解説をしていきます。

(1) 対話型授業の心構え

(2) 話しやすい雰囲気をつくる場づくりの技術

(3) 生徒の思いを引き出す傾聴の技術

(4) 話し合いを活性化させる進行と設計の技術

(5) 深い学びを促す体験ワーク

(6) 総合学習の時間のカリキュラム例

生徒たちが自分の個性を育み、広い世界に関心を持ち、未来に希望が感じられる。そんな対話型授業をこれまで心がけてきました。

「知識」として学ぶのではなく、「実感」することで得られる学び。対話という手法には、その学びをもたらす効果があります。

注意が必要なのは、対話や話し合いは、その質を高めようとすれば、クリアすべき壁がいくつもあるということです。話し合いの指示さえすればうまくいく、そういうものではありません。話し合いに慣れていない生徒たちと行う場合には、特に丁寧な場づくりが求められます。そこに「技術」が必要となるのです。

教育の現場がわかっていない者からの参考本ではございますが、形だけの対話ではなく、目指したいところにたどり着く対話へ。その一助になればと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

大木浩士

\* 「企業訪問-CAMP」の参加者数は、会議室の都合等で、1回3人から30人と設定しています。7年間の参加者数は約7000人です。「企業訪問-CAMP」以外の詳細は、H-CAMPのWEBサイトを「ご覧ください」。  
<https://www.hakuhodo.co.jp/h-camp/>

はじめに 2

第1章

対話型授業の心構え

13

対話型授業を通じて実現したいことを心に持つ

14

今日の授業の目標を決める

20

振り返りの時間を持つ

28

気づき合いが生まれる土壌をつくる

31

第2章

話しやすい雰囲気をつくる  
場づくりの技術

37

3部構成の場づくりを行う

38

相手を理解する時間を持つ

44

先生と生徒との間にブリッジをかける

49

先生も自己開示を行う

54

生徒の笑顔を引き出すコツ

57

大切なことはコトタマにのせる

63

先生自身がモデルになる

66

第3章

生徒の思いを引き出す傾聴の技術

71

傾聴の技術とは

72

心に留めておくべき2つの前提

77

## 第4章

### 話し合いを活性化させる 進行と設計の技術

- 話し合いは高度なスキル 120
- 進行の技術 “たくさん考え、絞る”を伝える 125
- 進行の技術 “話し合いのルール”を伝える 132

傾聴の技術① 頭の中に画像や映像を思い描き、共感的に理解する 85

傾聴の技術② 自分が理解したことを相手に告げる 90

傾聴の技術③ イメージを具体化するための質問をする 95

傾聴の技術④ 相手の思いを汲み、代弁する 101

傾聴の技術⑤ あいづちを組み合わせる・傾聴の効用 106

読む対話型授業

島根県の中学生との対話 111

## 第5章

### 深い学びを促す体験ワーク

- いろいろな視点で考えてみる 175
- 別のもので例えてみる 182
- なんでなんでインタビュー 186
- 課題の構造を整理する 192

対話型授業の導入ワーク

頭に浮かぶものをそのまま書くワーク 167

進行の技術 “脱線OK!”を伝える 142

進行の技術 大きな鉄球を転がすイメージを持つ 146

設計の技術 段階的な場の設計を行う 151

設計の技術 主観で語れる問いを立てる 157

設計の技術 話し合いを収束させるコツ 160

## 第6章

# 総合学習の時間のカリキュラム例

211

かけ算で発想する  
マチの中からヒントを探す

200

207

中高生がワクワクを感じるイベントのアイデア

215

学校の授業を楽しくするアイデア

217

地域の魅力をPRする（簡易版）

219

地域の魅力をPRする（本格版）

221

自分だけのロゴマークをつくろう

223

新商品開発・アイデア会議

225

おわりに

226

## 第1章

# 対話型授業の心構え

対話型授業の土台となる心構えや留意事項をご紹介します。